令和 5 年度全学教育科目

学生による授業アンケート報告書【集計結果分析編】

（令和 5 年度第 1 学期及び第 2 学期）

1．授業アンケートに関する国内の動向

2．令和 5 年度全学教育科目での授業アンケートの方法
　　および分析の目的

3．分析結果

4．考察

5．まとめ

１．授業アンケートに関する国内の動向

「学生による授業評価」は、1960 年代に米国で始まったと言われている。日本では 1970 年代に国際基督教大学が初めて組織的に実施し、「設置基準の大綱化」があった 1990 年代頃から全国的に広まったと言われている。この時期、急激に大衆化が進む日本の大学において、米国の大学改革のツールでもある GPA、ナンバリング、FD、3 つのポリシー等が、日本の高等教育機関の中に取り入れられていくことになり、この中に「学生による授業評価アンケート」も含まれている。しかし、これらが日本の文脈に沿って根づいたかというと、「このいわば定番メニューは、主として合衆国から直輸入された特殊な活動様式が形式化形骸化されたあげくの所産であり、その大半は、日常的な教育改善活動などとは直接に結びつかない単なるイベントである」（田中 2011）と指摘しているように、形骸化したイベントと化している可能性は否定できない。実際、「学生による授業評価アンケート」は、2008 年に学士課程において「義務化」された「ファカルティ・ディベロップメント（FD）」のツールの 1 つとして、多くの大学で実施されるようになっている。しかし、その有効な活用方法は未だ議論の途中にあるのが現状であろう（井下 2010）。

ここで、この「学生による授業評価」について、改めて振り返ってみたい。米谷（2010）によると、ロンドン大学が出している FD マニュアルの日本語訳には、「授業評価」が course evaluation の訳として出てきており、その方法には、授業アンケート方式、ビデオ撮影再生方式、オブザーバーの活用などがあると書かれている。学生アンケートは授業評価方法の 1 つにしかすぎないわけだが、日本では、その使い勝手の良さ等からか、「学生による授業評価＝学生アンケート」と定式化されているように思われる。

では、この日本式「学生による授業評価（＝学生アンケート）」を英語ではどう言うのか。それを検討すると、「学生の声（student feedback）」が適切ではないかと述べられている（米谷 2010）。そして、「授業評価」を考えるならば、何を評価するのかという問題、また、評価する側にその素養があるのかといった評価者の問題も存在している。そして、授業は個々の教員が担当しているけれども、実際には様々な要因が絡み合って成立しており、教員個人の努力だけではなく全体の仕組みや環境を整え直さなければ改善しないこともありうる。したがって、この「学生の声」を「個人の教員の評価結果」として数値化して優劣をつけるのは決して望ましい活動ではないだろう。

さらに、この「学生の声」（学生アンケート）の結果を活かすには、個々の教員に対しては単にフィードバックシートを返すのみではなく、結果にコメントを付けたり、専門家によるコンサルテーションをセットにしたりすると良いと言われている（米谷 2010）。ただし、米国と日本とではコンサルテーション等に対する文化が異なり、また、テニュアトラックのある米国の大学と日本の大学とでは同じようには受け入れられないだろう。また、誰がコメントを付すのか、コンサルテーションをするのか、といった問題が残る。

井下（2010）は、現在のアンケート調査による「学生による授業評価」は、「社会調査」であり、「受講学生の授業に対する感想コメントについての調査」であると述べている。これは、前述の「学生の声（student feedback)」と同様の意見であり、このように「社会調査の 1 つ」という認識を教職員学生双方が持つことにより、学生による授業評価を教員評価と混同することを避けることができるとも述べている。井下（2010）には、「学生による授業評価調査」がもたらすマイナス面の一つとして、組織にとって大切な「相互信頼関係」に亀裂を生む可能性が指摘されている。そのようなことが発生しないように、「社会調査の 1 つ」であるという認識の上で活用方法を考えなければならない。

その一方で、この「学生によるフィードバック」（学生アンケート）の結果が適切に分析されれば、授業や科目、カリキュラム、授業実施における各種環境等の大学の教育に関わる様々な状況を把握し、改善に活かすための情報源となり得る。したがって、この授業評価アンケートから各種知見を導き出そうとする試みは試していくべきであろう。

例えば、松河（2020）は、アンケートの自由記述に着目し、テキストマイニングなどの技術を用いた分析を提案している。自由記述の分析手法には、単語の頻出頻度の比較や多変量解析、ネットワーク分析の適用、トピックモデルを活用した手法など、様々な手法がある。これらの自由記述分析の難しさは、「定式化された方法」がないことであり、データを見ながら、分析結果を見ながら、様々な手法を試し、何らかの基準（仮説）をもって方法を決めていかなければならない。そのため、「誰が分析を行うのか」という問題は残ってしまうし、また、結果の解釈についても分析者によって異なってくる可能性がある。しかし、従来の統計的手法による分析で十分に活用できていないのであれば、自由記述の分析に取り組んでみる必要はあるだろう。そして、その結果は、単に教員にフィードバックシートを返すのみではなく、FD（授業改善）の一環として組織的に取り組む必要があることは、松河（2020）でも指摘されている。

その中で、大阪府立大学（現・大阪公立大学）の取り組みは興味を引く。星野（2013）は、「授業アンケート」の課題として、最初に「学生に授業を『評価』されていると教員から見られがちであった」点を挙げている。学生から「評価」されることへの抵抗感、「満足度」への過度の注目、また逆に「満足度」が高ければ良い授業と言えるのかといった疑問などから、「授業アンケート」の意義を問い直す必要が生じていたと述べている。次に、現在の授業アンケートの最大の課題は「学生への直接的なメリットがほとんど無い」ことであるとも指摘している。学生は時間をかけてアンケートに回答するものの、その成果は次年度以降に反映されるものであり、さらに、数年間の授業アンケート結果をみても、ほとんど数値に変化がないのが現状である。また、「学生は、回答したらそれで終わりで、自分の回答すら後で見ることができません。」（星野 2013）という指摘もその通りである。

その一方で、星野（2013）が指摘しているように、授業を担当している教員からすると、「満足度」以上に学生の学びを知ることの大切さと継続的にデータを蓄積してふり返ることの大切さはその通りであろう。江本（2023）が指摘しているように、大学教員の授業改善

のベースには「振り返り（省察）」があり、それを促すようなデータは継続的に収集・提供していくべきであろう。それが現在の「授業アンケート」の形式でよいのだろうか。そこは再検討が必要なところである。

前述のような検討の結果、大阪府立大学（現・大阪公立大学）では、授業アンケートに代わる試みとして、学生自身に学びの自己評価を核とした e ポートフォリオの活用に取り組んでいる（星野 2013）。実は、同様の取り組みがフィンランドのヘルシンキ大学で行われている（LEARN プロジェクト）という報告があり、内部質保証システムにおいて重要な役割を担っているとされている（鳥居 2021）。実際、教育の内部質保証として学生から得られる何らかのデータを活用するのであれば、現在の授業アンケート（＝学生の声）ではなく、ポートフォリオを活用した形式（＝学生の自己評価の蓄積）の方が適切であろう。

このような e ポートフォリオの導入はすぐには無理だとしても、授業アンケートの集計・分析方法については工夫の余地があり、各大学で様々な工夫が行われている。例えば、東北大学の全学教育の授業アンケートは、平成 21 年度までは質問項目が 26 項目だったものが、次年度の平成 22 年度からは質問項目数を 14 項目までに減らしている。さらに、平成 17 年度には 331 ページの報告書を出していたの対し、令和 5 年度の報告書は 4 ページで構成されており、公開するための報告書作成は省力化されつつある。その一方で、学生によるアンケートに対して自由記述も含めた分析に取り組んでおり、新たな組織的な活用方法を探求していると言えるだろう（松河 2021）。

北海道大学において「学生による授業評価」が導入されてそれなりの年月が経っている。そして、その結果は極めて安定しており、ほとんど変化がない。改めてその意義を問い直し、本来の授業改善に役立つデータとするための方策を考えてもよい時期にきていると言えるだろう。本報告書では、その試みの 1 つとして、従来の集計に加えて、自由記述のテキストデータを用いた分析を試験的に行っている。今年度は試験的実施のため、十分な成果が得られたとは言えないが、従来の数値データによる分析だけでは見えてこないものが見いだせる可能性は示せたかと思う。これを最初の一歩とし、今後も、より適切な「学生の声（student feedback）」の活用方法を検討していくことを考えている。

【参考文献】

井下理（2010）第 1 章第 3 節「学生による授業評価」調査の活用を考える，学生による授業評価の現在，東北大学出版会.

江本理恵（2023）大学教員の授業の省察を促すシステムの開発とその持続的な活用プロセスの研究，放送大学博士論文.

田中毎実（2011）第 1 章日本の FD の現在－なぜ、相互研修型 FD なのか？，大学教育のネットワークを創る，東信堂.

東北大学全学教育 https://www2.he.tohoku.ac.jp/zengaku/zengaku_eq.html（参照日：

2024/08/13）
鳥居朋子（2021）大学の IR と学習・教育改革の諸相，玉川大学出版部.
星野聡孝（2013）大阪府立大学における e ポートフォリオを活用した学習・教育支援の取り組み，JUCE Journal 2013 年度 No.4.
米谷淳（2010）第 1 章第 1 節学生からの声を生かす－学生授業評価から学生支援評価へ－，学生による授業評価の現在，東北大学出版会.
松河秀哉（2020）第 8 章教育データ分析による教員支援，教育工学における大学教育研究，ミネルヴァ書房.
松河秀哉，山内保典，佐藤智子，中川学，縣拓充，中村教博，串本剛，杉本和弘，渡邉文枝（2021）オンライン授業の現状と学生の評価 －基礎ゼミ受講者へのアンケート結果を中心に－，東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要第 7 号.

２．令和５年度全学教育科目での授業アンケートの方法および分析の目的

2.1. 実施方法

2.1.1. 対象授業

北海道大学において、令和５年度第１学期および第２学期に開講された全学教育科目を対象とした。授業の分類は表 2.1 の通りである。

表 2.1　授業の分類

分類項目	分類
授業形態	講義、演習
科目区分	教養科目（一般教育演習、主題別科目、総合科目、共通科目）
	基礎科目（数学、理科、文系）
	外国語演習、外国語科目、日本語に関する科目
必修・選択の別	必修、選択
受講登録学生数	25 人以下、26～50 人、51～100 人、101～200 人、201 人以上

2.1.2. 実施方法

令和５年度に開講している授業科目のうち１つ以上の科目において、授業最終回に学生に対してアンケートを実施するよう教員に依頼した。アンケートは Web で行われた。

2.1.3. 質問項目

質問項目数は最大 28 項目であった。質問内容は、シラバス、教員の教え方、学生の科目に対する行動や考え方、授業の感想などであった（表 2.2）。

表 2.2　令和５年度 全学教育科目 授業評価アンケート質問項目

設問番号	項目	選択肢
設問 01	シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。（シラバスは初回授業時の授業方針の説明を含む。）	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 02	授業はシラバスに沿って行われていた。（シラバスは初回授業時の授業方針の説明を含む。）	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 03	授業で要求される作業量（レポート、課題、予習・復習など）は適切であった。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない
設問 04	授業内容の難易度は適切であった。	極めて難しい／難しい／適切／やさしい／極めてやさしい
設問 05	教員の説明はわかりやすかった。（オンライン上で配信された教員作成の資料や説明文を含む。）	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 06	教員の熱意が伝わってきた。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 07	教員の話し方は聞き取りやすかった。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 08	教員は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。発言はオンライン上での投稿を含む。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 09	教員は学生の質問・発言等（オンライン上での投稿を含む）に適切に対応した。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 10	黒板、教科書、プリントやＡＶ機器等の使われ方が効果的であった。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 11	この授業の自分の出席率は（　　）%程度であった。（出席はオンデマンド授業を閲覧したことを含む。）	100／80／60／40／20
設問 12	質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。（質問、発言はオンライン上での投稿を含む。）	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない／当てはまらない
設問 13	この授業１回（90 分）のための予習・復習に費やした時間は平均（　　）であった。	４時間以上／３時間／２時間／１時間／30 分以下
設問 14	シラバスに記載されている到達目標は、（　　）割程度達成できた。（シラバスは初回授業時の授業方針の説明を含む。）	10／９／８／７／６／５／４／３／２／１／０
設問 15	授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない
設問 16	授業は全体として満足できるものであった。	強くそう思う／そう思う／どちらともいえない／そうは思わない／強くそう思わない
設問 17	【追加設問１：コミュニケーション能力】 人間や社会に係わる事象や自然界の事象を主	

	として言語を通じて正しく理解できること、自分の考えを的確に言語的に表現できること、相互にアイデアを交換できること。	
設問 18	【追加設問２：人間や社会の多様性の理解】各学問分野の専門家が、専門の壁を越えて行う授業を通して、それぞれの専門の持つ幅と奥行きを体験するとともに、自分が志望する専門以外の分野についても、積極的に視野を広げること。	
設問 19	【追加設問３：創造的な思考能力と建設的な批判的能力】根拠にもとづく推論とは何か、矛盾をどのように解決するか、公平で的確な判断をどのように行うかなどを経験することによって、独創的で批判的なものの考え方を理解し身につけること。	
設問 20	【追加設問４：社会的責任と普遍的な倫理観】制度や科学技術が高度に発達した社会において、人間としてあるいは市民としての普遍的な倫理について、具体的な事例の検討を通じて考えること。	
設問 21～設問 24	（教員が追加した設問）	
設問 25	この授業で良かったと思う点について書いてください。	自由記述
設問 26	この授業で改善した方が良いと思う点について書いてください。	自由記述
設問 27	その他、気づいたことがありましたら書いてください。	自由記述
設問 28	授業アンケートの実施方法や設問内容などについて、意見がありましたら書いてください。	自由記述

2.2. 分析の目的と方法

2.2.1. 目的と方法

令和５年度授業評価アンケートの分析では、前年度までの報告書では触れられていないかった自由記述の回答データについて分析することとした。自由記述の回答には、各授業に対する学生の率直な意見が述べられている。学生にとって「良い授業」「受けにくい授業」がどのようなものであるかを把握することで、教員は、学生の興味関心をひきつけ、学生がより主体的に学べる授業を設計・実施するためのヒントを得ることができよう。一方で、北海道大学の学生やカリキュラムが持つ問題点も把握できる可能性がある。

そこで、設問 25「この授業で良かったと思う点について書いてください（以下、「よかった点」)」、設問 26「この授業で改善した方が良いと思う点について書いてください（以下、

「改善点」)」の自由記述の回答データについて、計量テキスト分析（KH Coder）を用いて分析した。

(1)「よかった点」および「改善点」の回答全体の様子を把握するために、多次元尺度構成法（MDS；Multi-dimensional scaling）を用いてポジショニングマップを作成した。
(2)「よかった点」および「改善点」の回答について、(1)科目区分、(2) 1 週あたりの予習・復習時間（設問 13)、(3)科目への満足度（設問 16）の回答による特徴語の違いを把握するために、対応分析（コレスポンデント分析）を行った。

なお、本アンケートのデータは、1 人あたり 1 データではない。ある学生が年間に 20 科目履修し、すべての科目で回答した場合、その学生の回答データは 20 データあることになる。

2.2.2. データクレンジング

自由記述データには、そのままでは分析に支障がありそうな記述も含まれていた。よって、以下の 3 点についてデータクレンジングを行った。

(1)英語データの日本語訳

Google 翻訳を用いて日本語に翻訳した。

(2)表記の揺れの統一（6 語）

ツール名などの固有名詞、よく使われる略語、漢字と平仮名の揺れについて統一した。

PowerPoint ←パワーポイント（37 件），パワポ（18 件）
Python ←パイソン（7 件）
Moodle ←ムードル（34 件）
プレゼンテーション ←プレゼン（89 件）
ない ，なし←無い，無し（204 件）
分かる ←わかる（899 件）

(3)複合語として強制抽出する語／抽出しない語（KH Coder；6 語）

【強制抽出する語】

オンデマンド
シラバス
ハイフレックス
感じること

【抽出しない語】

思う
感じる

３．分析結果

総回答データ数は 24,314 件であった（第 1 学期 14,577 件、第 2 学期 9,737 件）。表 3.1 ～表 3.3 には、対応分析の外部変数として使用した、(1)科目区分、(2) 1 週あたりの予習・復習時間、(3)授業への満足度、の選択肢ごとの回答数を示した。

表 3.1　(1)科目区分ごとの回答数

科目区分	回答数
外国語演習	2,905
外国語科目	3,902
基礎科目（数学）	2,520
基礎科目（文系）	667
基礎科目（理科）	5,125
教養科目 主題別科目	3,718
教養科目 総合科目	1,931
教養科目 一般教育演習	1,344
教養科目 共通科目	2,129
日本語に関する科目	33
合計	24,274

表 3.2　(2) 1 週あたりの予習・復習時間（設問 13）に対する回答数

選択肢	回答数
A（4 時間以上）	760
B（3 時間）	1,206
C（2 時間）	4,187
D（1 時間）	9,351
E（30 分以内）	8,747
合計	24,251

表 3.3　(3)授業への満足度（設問 16）に対する回答数

選択肢	回答数
1（強くそう思わない）	337
2（そうは思わない）	853
3（どちらともいえない）	2,660
4（そう思う）	11,658
5（強くそう思う）	8,677
合計	24,185

3.1. 「よかった点」の分析

設問 25「よかった点」に対する回答数は 9,138 件であった（「特になし」など意見がない回答も含む）。

3.1.1. 抽出語

総抽出語数は 181,010、抽出語数は 4,719 語であった。抽出頻度が多い抽出語は、「授業（サ変名詞；2,215）」、「分かる（動詞；1,413）」、「先生（名詞；950）」、「説明（サ変名詞；891）」、「内容（名詞；854）」であった。

3.1.2. MDS による回答全体の様子

「よかった点」に対する回答全体の様子を把握するために、MDS を実行した。最小出現数を 120（語数 88）に設定して階層的クラスター分析を実行し、併合水準を確認したところ、クラスター数 10 が推奨された。そこで、クラスター数を 10 に設定して MDS（Kruskal 法）を実行したところ、図 3.1 のように布置された。

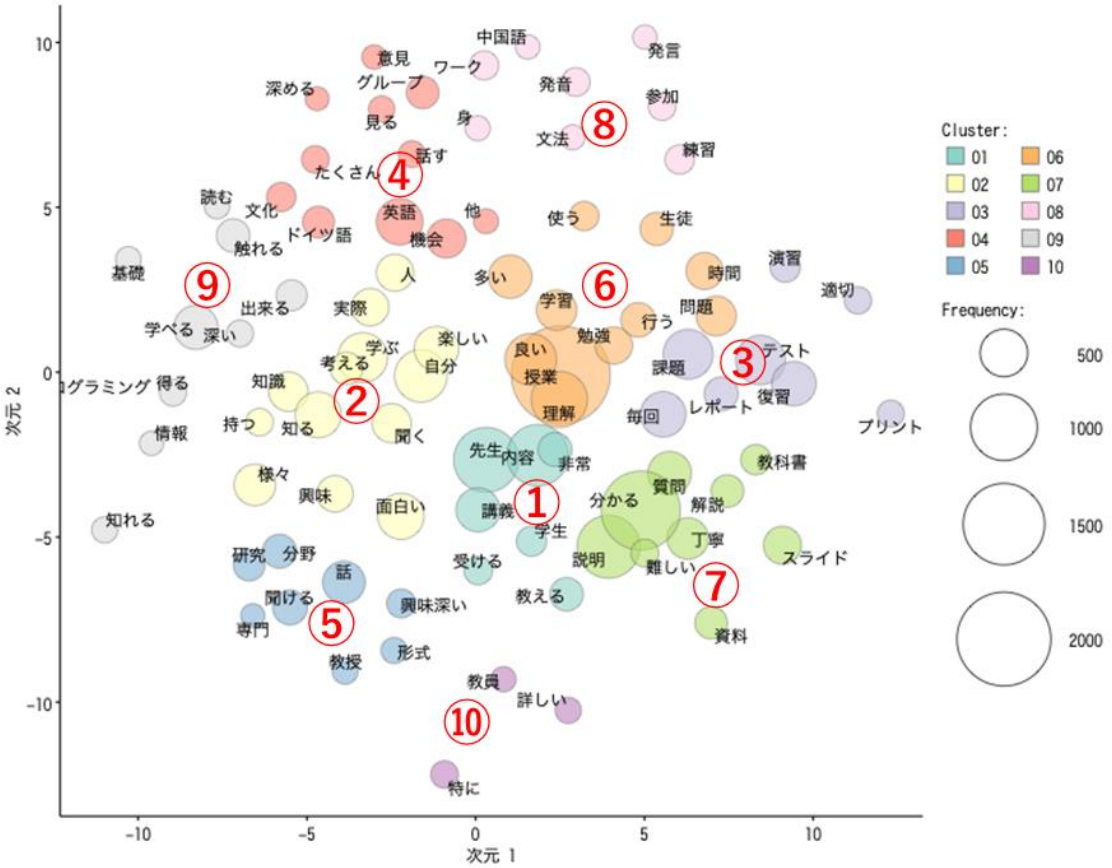

図 3.1　「よかった点」の多次元尺度構成法（２次元解）

以下、各クラスターの概要、含まれる語、それらの語が使用されていた文脈の例（KH Coder の KWIC コンコーダンス機能を使用）、および解釈を示す。

①第 1 クラスター：授業内容と方法

「先生」「内容」「講義」「非常」「学生」「受ける」「教える」の 7 語が含まれた。「先生の講義内容がよかった」「先生に丁寧に教えてもらった」などの文脈で使用されていた。

授業内容が学生の興味関心に沿うものであったこと、教員が学生に対して丁寧に教えてくれたことなどが「よかった」と捉えていることが伺える。

②第 2 クラスター：知識の獲得

「人」「実際」「楽しい」「自分」「学ぶ」「考える」「知識」「知る」「持つ」「様々」「興味」「聞く」「面白い」の 13 語が含まれた。「専門的な知識を知ることができた」「授業内容が面白かった」といった文脈で使用されていた。

授業を受けることによって、新たな知識を獲得できたことや好奇心が刺激されて面白いと感じられたことが「よかった」と捉えていることが伺える。

③第 3 クラスター：課題や資料による知識・スキルの習得

「課題」「毎回」「レポート」「テスト」「復習」「適切」「演習」「プリント」の 8 語が含まれた。「毎回の小テストや課題が役立った」「レポートの書き方が身についた」「プリントを配布してもらえた」といった文脈で使用されていた。

小テストや課題が知識・スキルの習得に役立ったこと、レポートの書き方スキルが身についたこと、プリントを配布してもらえたことで学習に集中できたことが「よかった」としてあげられていた。

④第 4 クラスター：語学科目での活動

「英語」「機会」「他」「ドイツ語」「文化」「たくさん」「話す」「見る」「グループ」「意見」「深める」の 11 語が含まれた。語学科目で「ほかの国の文化を知ることができた」「外国語をたくさん話すことができた」「グループワークやディスカッションが良かった」といった文脈で使用されていた。

語学科目での活動において、他国の文化を知ることができたことや、外国語を実際に話す機会を得られたことが「よかった」と捉えていることが伺える。また、グループワーク、ディスカッションなどのインタラクティブな活動が含まれていたことも好意的に受け止められていた。

⑤第 5 クラスター：専門・研究についての話題

「研究」「分野」「専門」「話」「興味深い」「聞ける」「形式」「教授」の 8 語が含まれた。

「さまざまな専門分野の話が興味深かった」「教員の研究の話を聞くことができた」といった文脈で使用されていた。

教員の専門分野や研究についての話を聞けたことが「よかった」と捉えていることが伺える。

⑥第 6 クラスター：授業内容の理解

「授業」「理解」「良い」「勉強」「学習」「行う」「多い」「使う」「生徒」「時間」「問題」の 11 語が含まれた。「授業内容が理解できた」といった文脈で使われた。

学生にとって授業内容が理解できた授業であったことが「よかった」と捉えていることが伺える。

⑦第 7 クラスター：解説や資料、質問対応のわかりやすさ

「分かる」「説明」「質問」「難しい」「丁寧」「解説」「教科書」「スライド」「資料」の 9 語が含まれた。「難しいことでも説明・解説がわかりやすかった」「質問に答えてもらえた」「教科書ではわからないことも教えてもらえた」「スライドがわかりやすかった」という文脈で使われていた。

教員の説明や解説、スライド等の資料がわかりやすく、質問に対して教員に快く回答してもらえたことが「よかった」と捉えていることが伺える。

⑧第 8 クラスター：語学科目での文法・発音習得

「中国語」「ワーク」「身」「文法」「発音」「発言」「参加」「練習」の 8 語が含まれた。「中国語の発音，文法などを学べた」「発音練習が多かった」といった文脈で使われた。

語学科目において、発音や文法を十分に練習・演習する時間が設けられ、習得できたことが「よかった」と捉えていることが伺える。

⑨第 9 クラスター：学問の基礎の習得

「学べる」「深い」「できる」「触れる」「読む」「基礎」「得る」「情報」「プログラミング」「知れる」の 10 語が含まれた。「〇〇学の基礎を学ぶことができた」「プログラミングを学べた」「知識を得られた」といった文脈で使われていた。

授業で扱われた学問分野の基礎的な内容を、十分に学べたことが「よかった」と捉えていることが伺える。

⑩第 10 クラスター：教員の説明

「教員」「詳しい」「特に」の 3 語が含まれた。「教員の説明が詳しかった」「特になし」といった文脈で使われた。

教員の説明が詳しかったことも「よかった」と捉えられている。また、このクラスターに

は「(良かった点は) 特になし」も含まれていた。

3.1.3. 対応分析

(1)科目区分、(2) 1 週あたりの予習・復習時間、(3)授業への満足度、を外部変数とした対応分析を行った。布置する語の最低出現数は 100（語数 108 語）に設定した。

(1)科目区分

科目区分によって「良かった点」の自由記述にどのような傾向があったのかを確認するために、科目区分を外部変数とした対応分析を行った（図 3.2)。

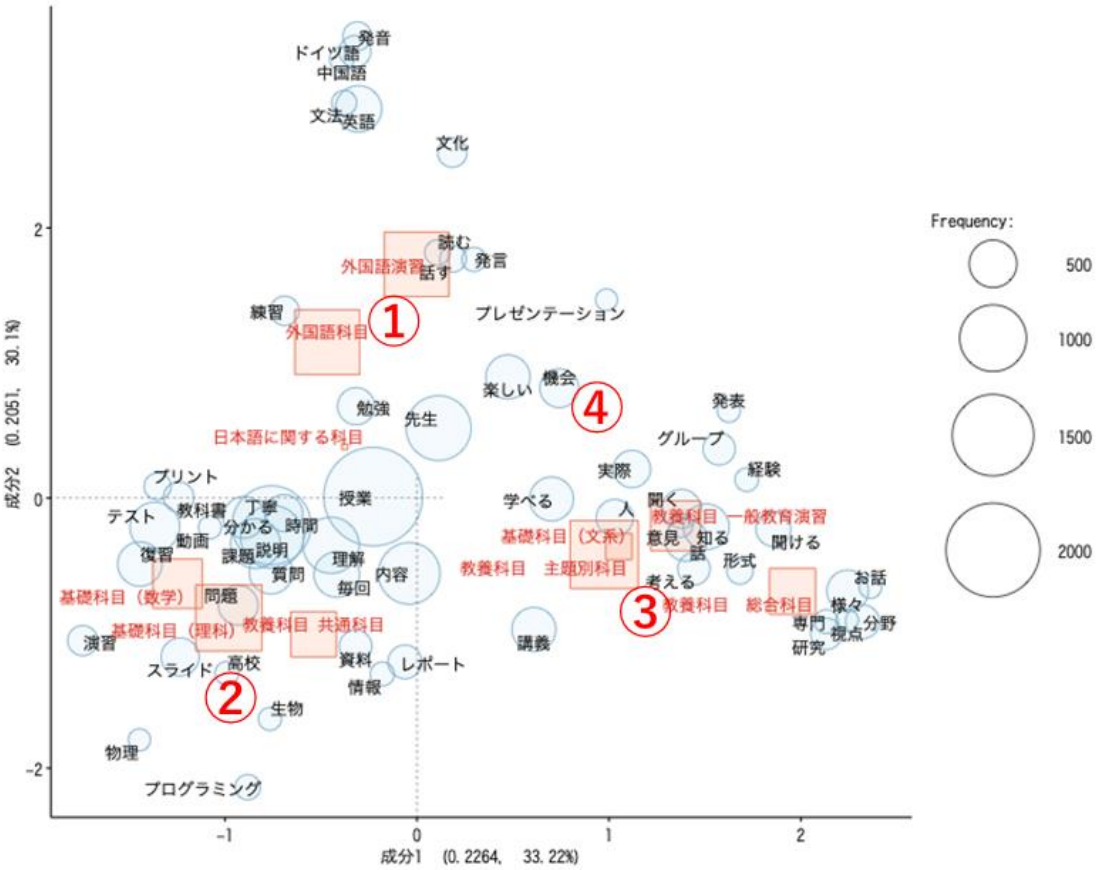

図 3.2 「よかった点」の科目区分を外部変数とした対応分析結果

原点から見た外部変数の方向に、原点からより離れて布置された語がその外部変数の特徴語である。なお、ある外部変数の特徴語が含まれる自由記述回答が、その外部変数の回答者の回答とは限らない点に注意が必要である。たとえば、「物理」は基礎科目（理科）の特徴語と示されているものの、「『物理』の知識が必要だったが…」という自由記述回答が基礎科目（理科）でされた回答とは限らない。

①外国語演習・外国語科目

特徴語として、「ドイツ語」「中国語」「英語」「発音」「文法」「文化」などがみられた。語学授業に対する「発音練習があった」「文法の説明がわかりやすかった」「文法が学べた」「海外の国の文化を知ることができた」といった記述が含まれた。

発音練習が十分あったこと、文法の説明がわかりやすくしっかり学べたこと、海外の文化に触れられたことなどが「よかった」と捉えていることが伺える。

②基礎科目（数学）、基礎科目（理科）、教養科目 共通科目

特徴語として、「復習」「演習」「スライド」「高校」「物理」「生物」「プログラミング」などがみられた。「スライドが見やすかった」「スライドが配布してもらえた」「高校で物理［生物］選択でなかった人にもわかりやすかった」「高校物理［生物］選択の人には復習になった」「高校で物理［生物］選択だったが新たなことが学べた」「物理学［生物学］について深く学べた」「プログラミングについて学べた」「プログラミングが面白かった」といった記述が含まれた。

物理と生物については、学生本人にとって高校の理科選択科目であったかによって感想が異なっていた。高校で履修した科目に対しては、高校で学んだ知識に加えて新たな知識や最先端の研究などの内容が授業に含まれていることに対しては「よかった」と捉えていることが伺える。一方で、高校で履修しなかった科目に対しては、既習でなくても無理なく学べることが重視されていた。プログラミングは学べてよかったという記述が多数みられた。

③教養科目 一般教育演習、教養科目 主題別科目、教養科目 総合科目、基礎科目（文系）

特徴語として「お話」「分野」「専門」「視点」「研究」「様々」などがみられた。「様々な視点から学べた」「様々な視点からのお話が聞けた」「専門分野の先生からお話を聞けた」といった記述が含まれた。

教養として、専門分野の教員・研究者からその分野に関する詳細な話を聞くことができたことが「よかった」と捉えられていた。何らかの対象について様々な視点から学べることに対しても重視されていた。

④外国語演習、外国語科目および教養科目 一般教育演習、教養科目 主題別科目、教養科目 総合科目、基礎科目（文系）

これらの科目にまたがって、「プレゼンテーション」「発表」「グループ」などが特徴語としてみられた。「プレゼンテーション発表でほかの学生と協力し合えた」「プレゼンテーションすることで知識を深めたりスキルを高めたりすることができた」「グループワークが楽しかった」「グループワークでほかの人の意見を聞いたり自分の意見を考えて話したりすることができた」といった記述が含まれた。

教員のレクチャーだけではなく、グループワークやプレゼンテーションの機会があるこ

とが「よかった点」と捉えられていた。グループワークでほかの学生と交流すること、自分の意見を考えて発信することに対して学生がやりがいを感じていたことが示唆された。

(2) 1 週あたりの予習・復習時間

1 週あたりの予習・復習時間によって「良かった点」の自由記述にどのような傾向があったのかを確認するために、1 週あたりの予習・復習時間を外部変数とした対応分析を行った（図 3.3）。

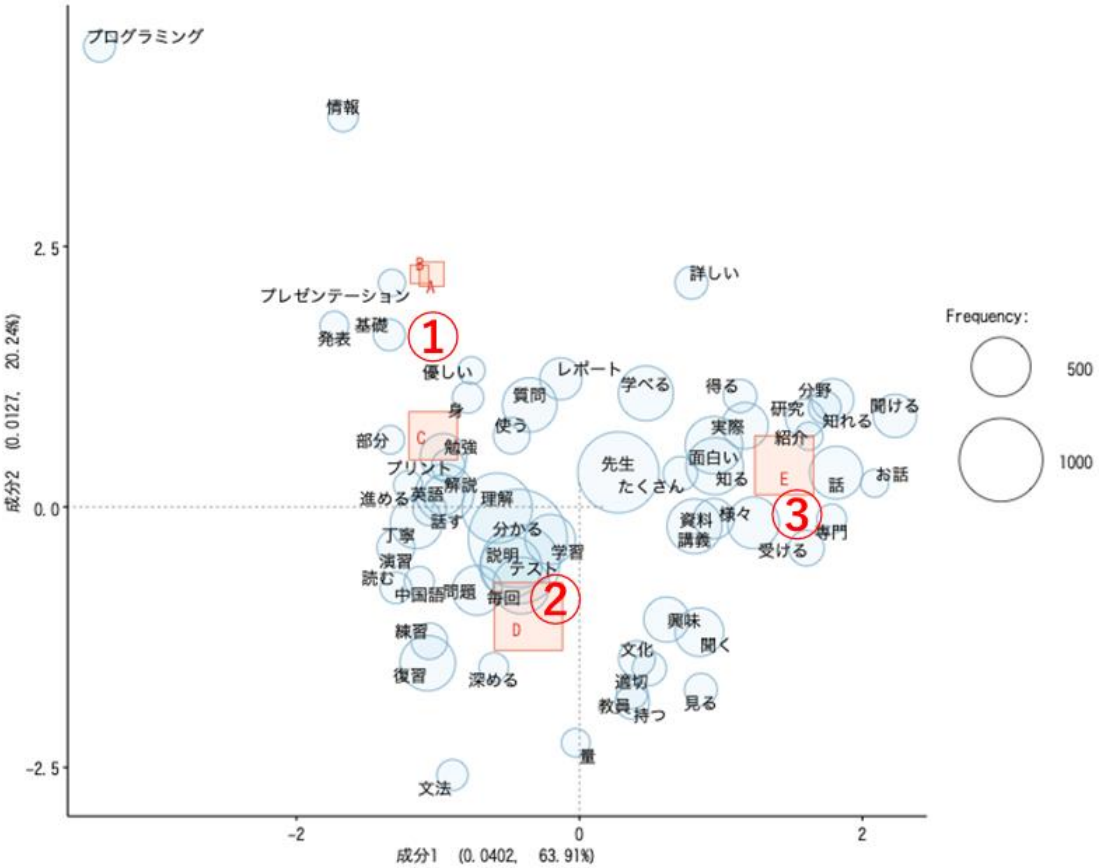

図 3.3　「よかった点」の予習・復習での学習時間を外部変数とした対応分析結果
（A＝4 時間以上、B＝3 時間、C＝2 時間、D＝1 時間、E＝30 分以下）

①A（4 時間以上），B（3 時間），C（2 時間）

特徴語として、「プログラミング」「情報」「プレゼンテーション」「発表」「基礎」などがみられた。「プログラミングについて学べた」「情報倫理について学べた」「発表する機会があってよかった」「基礎を学ぶことができた」といった記述が含まれた。

予習・復習時間が長めの回答者の「よかったこと」の自由記述には「プログラミング」「情報」が特徴語として布置されていたことから、情報のプログラミングの課題には多くの予習・復習時間が必要であったことが伺えた。また、プレゼンテーションのための準備にある程度の時間が必要であったことも伺えた。加えて、予習・復習時間が長めの回答者は、その

科目の基礎的な内容をしっかり学べたと感じていることも示唆された。

②D（１時間）

特徴語として、「文法」「練習」「復習」「深める」「量」などがみられた。「〇〇語の文法を学ぶことができた」「練習問題に取り組んだ」「復習しやすかった」「知識・理解を深めることができた」「課題の量が適切であった」といった記述が含まれた。

語学科目の予習・復習時間はおよそ１時間だったことが示唆された。また、学生のいう「適切な課題量」は予習・復習１時間程度であることが伺えた。

③E（30 分以下）

特徴語として、「聞ける」「知れる」などがみられた。「先生の話を聞けた」「〇〇について知れた」「さまざまな分野について知れた」といった記述が含まれた。

各回で予習・復習の課題があまり課されなかった科目であったことが推察される。レクチャー中心の授業で、教員から様々な話を聞けたことに対して「よかった」と捉えていることが伺えた。

(3)授業への満足度

授業への満足度によって「良かった点」の自由記述にどのような傾向があったのかを確認するために、授業への満足度を外部変数とした対応分析を行った（図 3.4）。

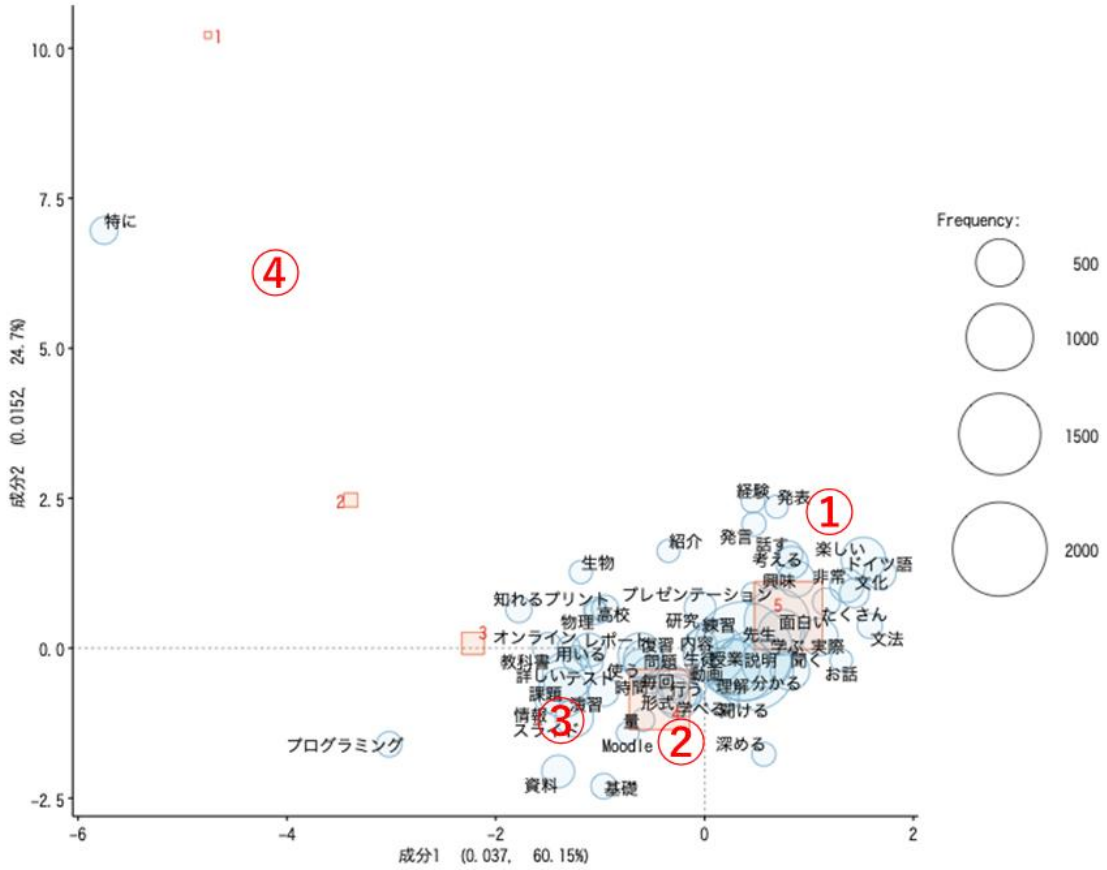

図 3.4　「よかった点」の授業への満足度を外部変数とした対応分析結果
（5 ＝満足度が高い～ 1 ＝満足度が低い）

①満足度 5

特徴語として、「楽しい」「興味」「ドイツ語」「話す」などがみられた。「授業が楽しかった」「〇〇を楽しく学べた」「グループワークが楽しかった」「興味を持てた」「興味を持つことができた」「興味があった〇〇を学べた」「ドイツ語の授業が面白かった」「ドイツ語が読めるようになった」「英語を話せるようになった」「ほかの学生と話す機会があった」「先生が〇〇のことを話してくれた」といった記述が含まれた。

満足度が高かった授業では、学生は、授業内活動で楽しかったり面白かったりした経験があったこと、知識やスキルを習得できた実感を得たこと、授業内容に興味を持てたことが示唆された。

②満足度４

特徴語として、「基礎」「資料」「スライド」などがみられた。「〇〇の基礎を学ぶことができた」「資料・スライドがわかりやすかった」「資料が配布された」「Moodle で資料が閲覧できた」といった記述が含まれた。

満足度４の授業では、学生は、基礎を学べたという実感を得られたこと、また、スライドや資料などの学習リソースを教員からきちんと提供してもらえたことを「よかった」と捉えていることが示唆された。

③満足度４～３

特徴語として、「情報」「プログラミング」などがみられた。「情報倫理について学べた」「情報がわかりやすくまとめられていた」「新しい情報を学べた」「プログラミングが面白かった」「プログラミングを基礎から学べた」といった記述が含まれた。

満足度が３～４の授業では、情報が適度に提示されていたことが「よかった」と捉えられているようである。「情報」の授業では、プログラミングや情報倫理をしっかり学べたことが「よかった」と捉えられている。

④満足度２～１

特徴語として、「特に」がみられた。これは「(良かった点は) 特になし」であった。満足度が低い授業に対しては「良かった点」の記述が少なかったということである。

3.2.「改善点」の分析

3.2.1. 抽出語

総抽出語数は 111,048、抽出語数は 4,045 語であった。抽出頻度が多い抽出語は、「特に（副詞；2,088)」、「授業（サ変名詞；1,217)」、「課題（名詞；612)」、「テスト（サ変名詞；594)」、「多い（形容詞；577)」であった。

3.2.2. MDS による回答全体の様子

「改善点」に対する回答全体の様子を把握するために、MDS を実行した。最小出現数を 80（語数 76）に設定して階層的クラスター分析を実行し、併合水準を確認したところ、クラスター数９が推奨された。そこで、クラスター数を９に設定して MDS（Kruskal 法）を実行したところ、図 3.5 のように布置された。

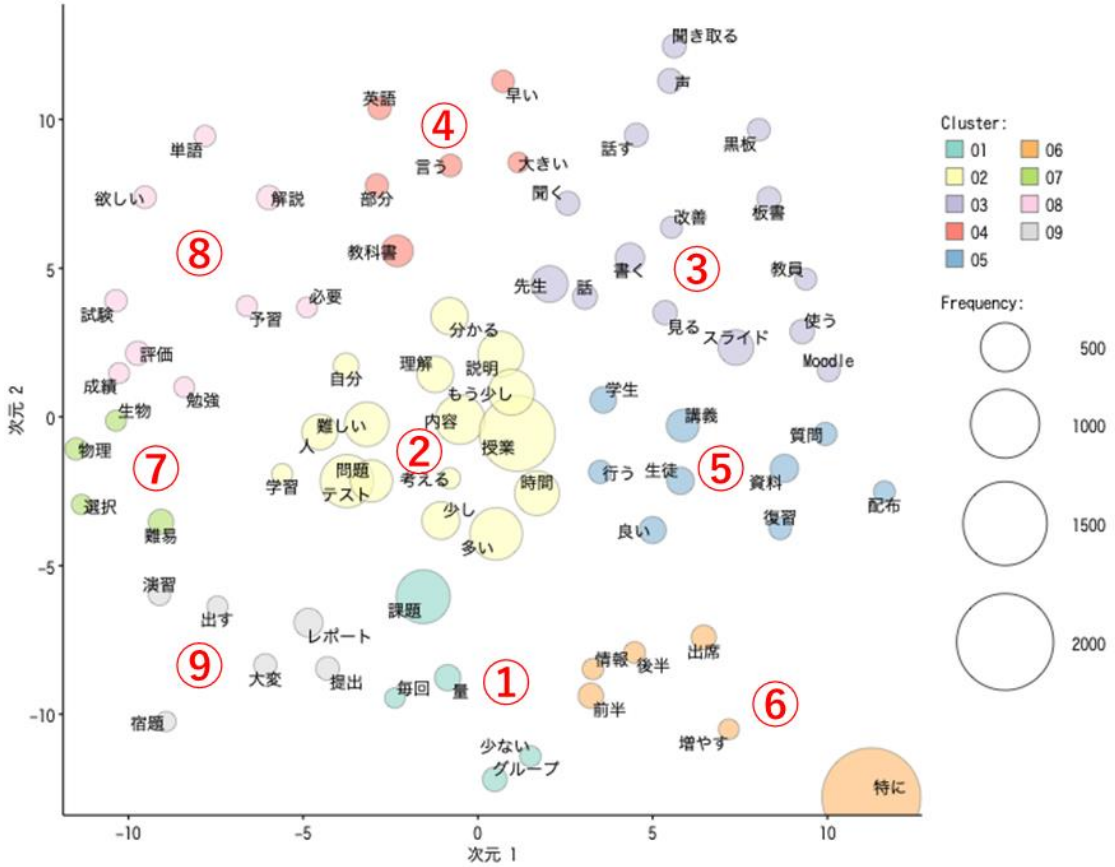

図 3.5　「改善点」の多次元尺度構成法（2 次元解）

以下、各クラスターの概要、含まれる語、それらの語が使用されていた文脈の例（KH Coder の KWIC コンコーダンス機能を使用）、および解釈を示す。

①クラスター１：課題量やグループワーク時間

「課題」「量」「毎回」「少ない」「グループ」の 5 語が含まれた。「課題量が多かった［もっと少なかったらよかった］」「課題があったらよかった」「前半と後半の課題量に差があった」「毎回の小テストがあるとよかった」「毎回の小テストの難易度が適切でなかった」「グループワークの時間が少なかった」「グループワークのグループメンバーがずっと一緒だった」「グループワークで積極性に欠ける学生がいた」「説明・解説が少なかった」といった文脈で使われていた。

課題量が多すぎても少なすぎても「改善が必要」と感じていたことが示された。また、毎回小テストがあった方がいいという意見もみられた。加えて、グループワークの時間やメンバー構成、進め方についての意見もみられた。

②クラスター２：授業内容やテストの難易度

「授業」「内容」「もう少し」「説明」「理解」「分かる」「考える」「時間」「少し」「多い」「自分」「難しい」「人」「学習」「テスト」「問題」の 16 語が含まれた。「授業内容が難し過ぎた」「授業内容が分かりにくかった［理解できなかった］」「説明が多かった」「学生の人数が多過ぎた」「テストが多かった」「小テストが難しかった」「期末テストについての説明が分かりにくかった」「期末テストだけで成績が決まる」「問題演習の時間がもう少し欲しい」「演習問題の解答・解説をもう少し欲しかった」といった文脈で使われていた。

授業内容の理解・習得がしにくい環境、成績評価の方法や周知の仕方に対して「改善が必要」と感じていたことが示された。

③クラスター３：教員からの情報伝達方法

「聞き取る」「声」「話す」「聞く」「書く」「改善」「先生」「話」「黒板」「板書」「教員」「使う」「スライド」「Moodle」の 14 語が含まれた。「話を聞くだけの回が多かった」「先生の話の脱線が多かった」「資料（スライド）と先生の話の対応が分からなくなるときがあった」「板書が早すぎてついていけなかった」「スライドを共有してほしかった」「スライドの情報量が多かった」「発表のためのスライド作成の時間がもう少し欲しかった」「Moodle にスライド資料を公開してほしかった」といった文脈で使われた。

話を聞くだけの授業や話の脱線が多すぎる授業に対して「改善が必要」と感じていることが示された。資料・スライド・板書と話とを合わせた情報量や提示される速度、課題に与えられた時間が、学生の理解・作業の速度に一致しない場合に対しても「改善が必要」と感じているようである。

④クラスター４：情報伝達の程度

「教科書」「部分」「英語」「言う」「大きい」「早い」の 5 語が含まれた。「教科書が分かりにくかった」「英語が聞き取れなかった」「負担が大きかった」「マイクを使って声を大きくしてほしかった」「音が大き過ぎた」「板書の字を大きくしてほしかった」といった文脈で使われた。

教員の話が聞き取れなかったことや文字が読み取れなかったこと、教科書がわかりにくかったことに対して「改善が必要」と感じていることが示された。

⑤クラスター５：質問への回答、復習

「学生」「講義」「行う」「生徒」「良い」「質問」「資料」「復習」「配布」の 9 語が含まれた。「質問に回答してもらいたかった」「学生の質問の仕方をどうにかしてほしかった」「質問への回答の仕方がよくなかった」「質問への回答時間が長かった」「資料を配布してほしかった」「復習がしにくかった」「復習する機会がほしかった」といった文脈で使われた。

授業内容をより理解するための「質問」に対して、教員から納得のいく回答が得られなか

ったことや、教員の回答の仕方や態度に対して「改善が必要」と感じていることが示された。また、十分な復習のための環境やツールが与えられなかったことに対しても「改善が必要」と感じている。

⑥クラスター６：課題や情報の量

「情報」「前半」「後半」「出席」「増やす」「特に」の５語が含まれた。「情報量が多かった」「情報倫理のビデオは授業外視聴でもよかった」「前半と後半の課題量が違い過ぎていた」、および「特になし」といった文脈で使われた。

授業で示される情報量や課題量の多さに対して「改善が必要」と感じていることが示された。

⑦クラスター７：生物・物理の難易度

「生物」「物理」「選択」「難易」の４語が含まれた。「高校の生物［物理］選択者には物理［生物］の授業が難しかった」といった文脈で使われた。

「よかった点」の自由記述と同様に、高校のときに履修していなかった科目の授業で、自分にとって難易度がミスマッチだった場合に「改善が必要」と感じることが示された。

⑧クラスター８：成績評価の方法

「予習」「必要」「勉強」「成績」「評価」「試験」「欲しい」「単語」「解説」の９語が含まれた。「シラバスと成績評価の基準が異なっていた」「成績評価の基準が分かりにくかった」「成績評価の方法が適切ではなかった」「試験の問題が多過ぎた」「試験の範囲が広過ぎた」「中間試験をしてほしかった」「専門的な単語の意味を説明してから話をしてほしかった」「解説が欲しかった」といった文脈で使われた。

成績評価の基準が不明確であったことや適切に周知されなかったことに対して「改善が必要」と感じていることが示された。また成績評価のためのテストの問題や範囲が学生にとって多すぎる（広すぎる）と感じられた場合についても「改善が必要」と感じるようである。

⑨クラスター９：レポート課題

「演習」「出す」「レポート」「大変」「提出」「宿題」の６語が含まれた。「レポート課題をもう少し早く示してほしかった」「レポートの字数が多すぎた」「レポートではなくテストが良かった」「レポート課題の解答例がほしかった」「課題が大変だった」「ついていくのが大変だった」「提出期限までが短かった」「レポートへのフィードバックがほしかった」といった文脈で使われた。

レポートや課題について、準備期間が不十分であったこと、分量が多すぎたことに対して「改善が必要」と感じていることが示された。また、レポートへのフィードバックを求める意見もみられた。

3.2.3. 対応分析

「改善点」について、(1)科目区分、(2) 1 週あたりの予習・復習時間、(3)授業への満足度、を外部変数とした対応分析を行った。布置する語の最低出現数は 70（語数 89 語）に設定した。

(1)科目区分

科目区分によって「良かった点」の自由記述にどのような傾向があったのかを確認するために、科目区分を外部変数とした対応分析を行った（図 3.6）。

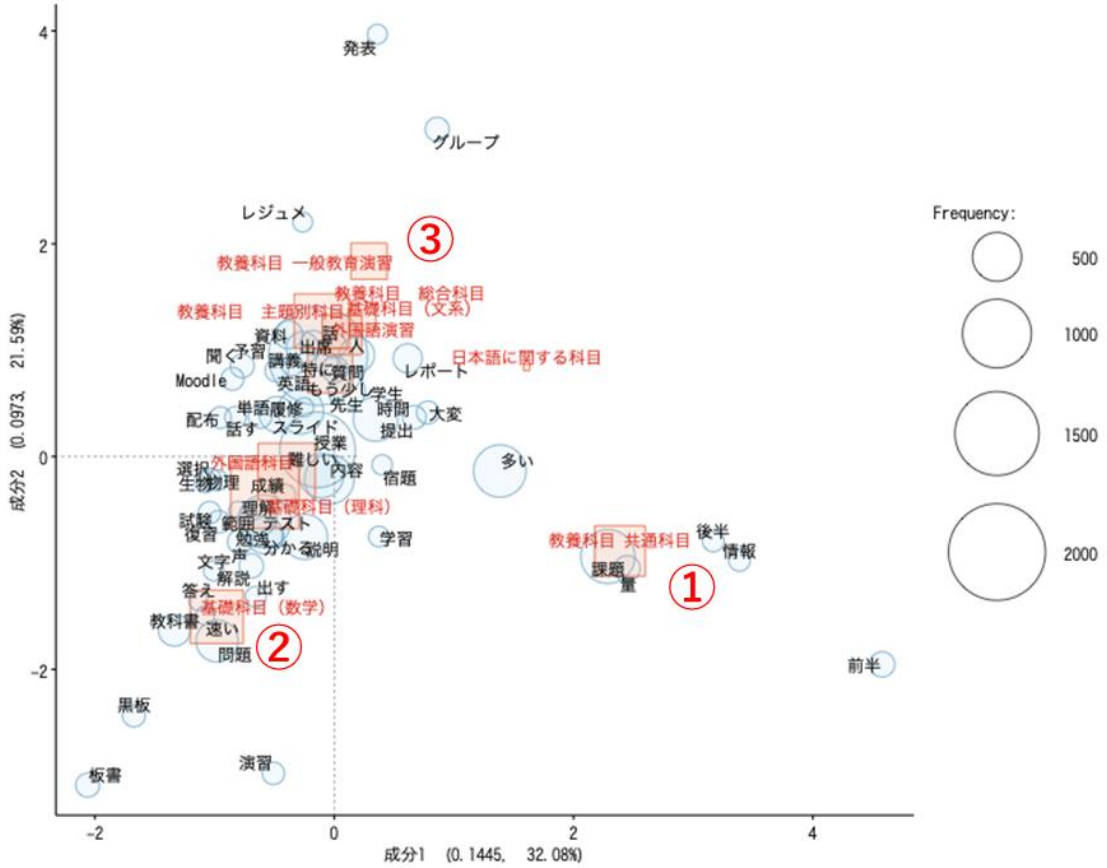

図 3.6 「改善点」の科目区分を外部変数とした対応分析結果

①教養科目 共通科目

特徴語として、「前半」「後半」「情報」「課題」「量」などがみられた。「情報倫理は課題が多かった」「情報量が多かった」「もう少し情報量がほしかった」「前半の課題が多かった」といった記述が含まれた。

②基礎科目（数学）

特徴語として、「黒板」「板書」「演習」「教科書」「問題」「速い」「答え」などがみられた。「板書が早すぎて追いつけなかった」「板書が見えにくかった」「演習がもっとあると良かっ

た」「演習問題の解答が欲しかった」「教科書がわかりにくかった」といった記述が含まれた。

教員の板書に学生が追いつけなかったり、文字が見えにくかったりしたことがあったようであった。また、より学習するための演習問題や解答を求める意見があった。

③教養科目 一般教育演習、教養科目 主題別科目、基礎科目 総合科目、外国語演習

特徴語として、「発表」「グループ」「レジュメ」などがみられた。「発表まで準備時間が少なかった」「発表のときには PowerPoint を使いたかった」「発表の準備の仕方が分からなかった」「全員が発表できると良かった」「グループワークの時間が欲しかった」「レジュメが欲しかった」といった記述が含まれた。

発表やグループワークなどインタラクティブな活動の進め方についての提案を中心に示されていた。

(2) 1 週あたりの予習・復習時間

1 週あたりの予習・復習時間によって「改善点」の自由記述にどのような傾向があったのかを確認するために、1 週あたりの予習・復習時間を外部変数とした対応分析を行った（図 3.7）。

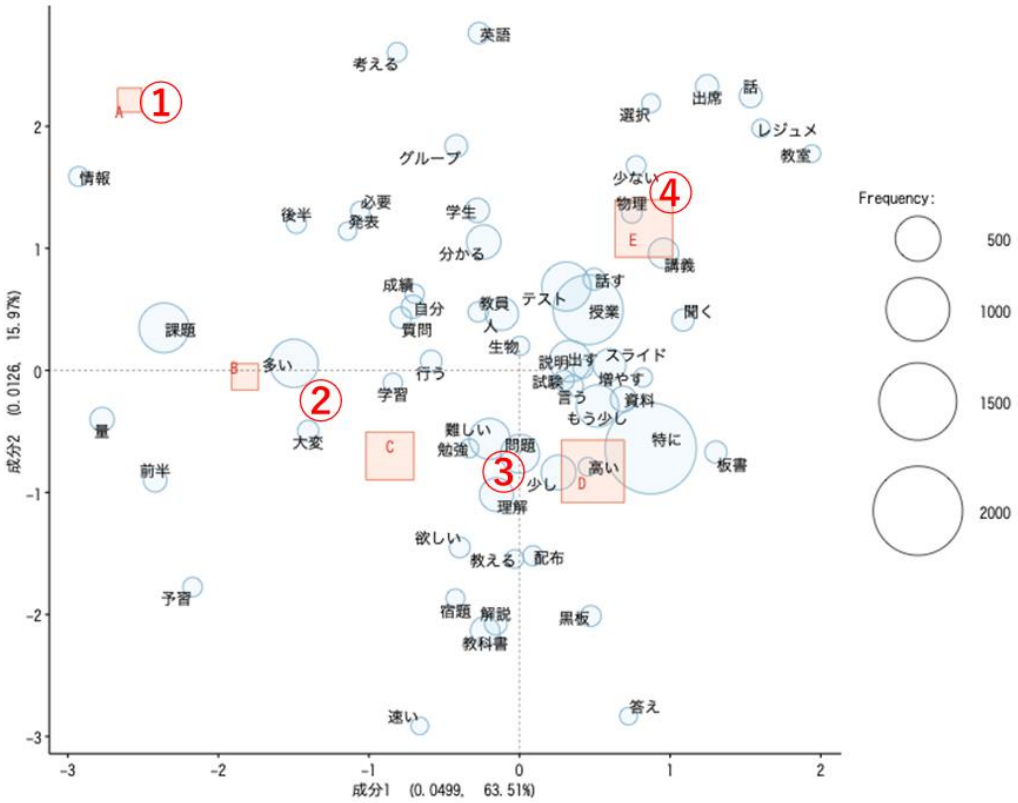

図 3.7 「改善点」の 1 週あたりの予習・復習時間を外部変数とした対応分析結果
（A＝ 4 時間以上、B＝ 3 時間、C＝ 2 時間、D＝ 1 時間、E＝30 分以下）

①A（4 時間以上）

特徴語として、「情報」がみられた。「情報量が多かった」や情報の授業についての記述がみられた。

②B（3 時間）・C（2 時間）

特徴語として、「課題」「量」「前半」「多い」「大変」「予習」などがみられた。「予習の量が多くて大変だった」などの記述がみられた。

予習・復習時間が 2 ～ 3 時間になると、学習時間が多いと感じる学生がいることが示唆された。

③C（2 時間）・D（1 時間）

特徴語として、「答え」「早い」「黒板」「教科書」「解説」「宿題」「教える」「配布」などがみられた。「テストの予定を早めに教えてほしかった」「答えを教えてほしかった」といった記述がみられた。

予習・復習時間が 1 ～ 2 時間の授業では、テストの予定の周知時期を早めてほしいという要望や、演習問題等の解答を欲しいという要望があることが示唆された。これらは学習を効率よく進めるための要望とも受け取れる。

④E（30 分以下）

特徴語として、「話」「出席」「レジュメ」「教室」「選択」「少ない」などがみられた。「出席点を成績に入れてほしい」「WiFi がつながりにくいのでシステム以外で出席をとってほしかった」「話を聞くだけのことが多かった」「レジュメ通りでない話が多かった」「人数に対して教室が狭かった」「教室が Wifi や Bluetooth がつながりにくかった」といった記述がみられた。

教員の教え方や授業内容、課題に関する要望よりも、教室の環境や授業への出席に関する要望が目立った。

(3)授業への満足度

授業への満足度によって「改善点」の自由記述にどのような傾向があったのかを確認するために、授業への満足度を外部変数とした対応分析を行った（図 3.8）。

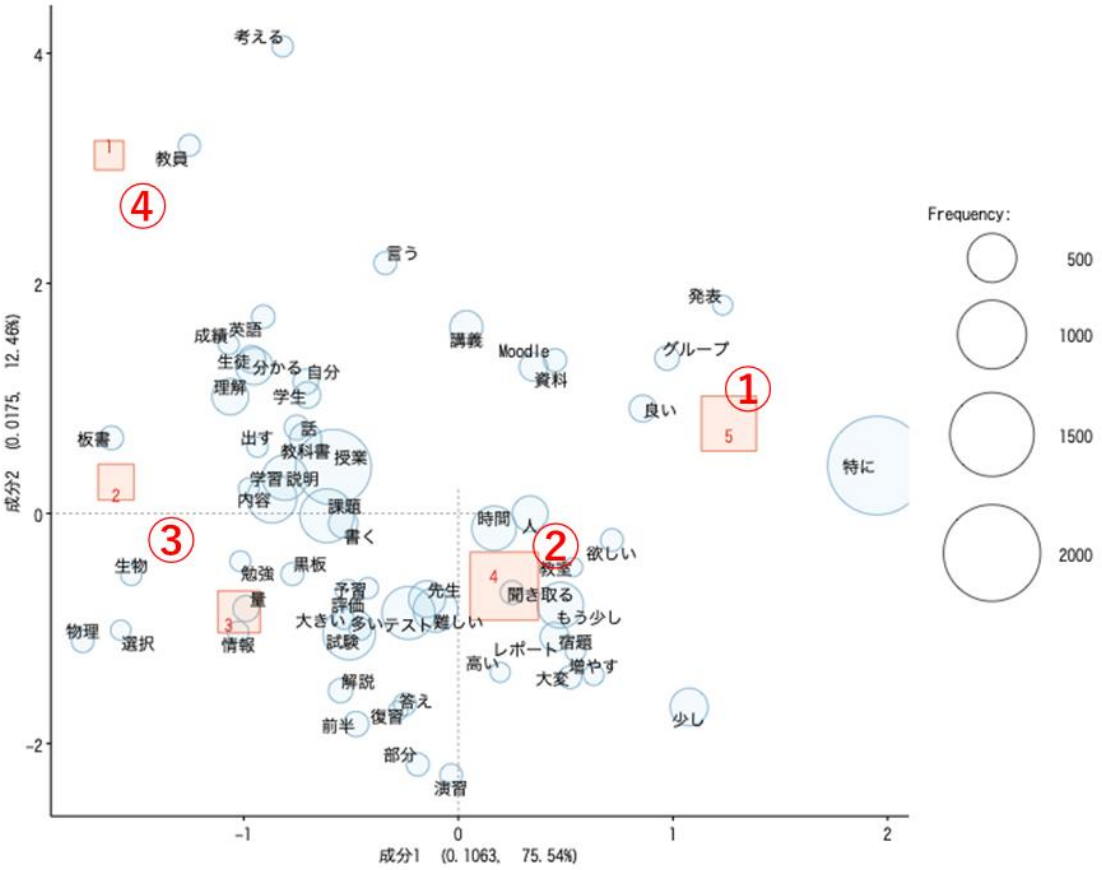

図 3.8　「改善点」の授業への満足度を外部変数とした対応分析結果
（5 ＝満足度が高い～ 1 ＝満足度が低い）

①満足度 5

特徴語として「特に」がみられた。満足度が高い授業では「(改善点は）特にない」という回答が多かった。

②満足度 4

特徴語として、「少し」「大変」「増やす」「レポート」「高い」「演習」などがみられた。「演習問題を増やしてもよかった」「発表人数を増やしてもよかった」「レポートを書く時間を増やしてほしかった」といった記述が含まれた。

おおむね満足ではあるものの、「もう少しこうだと良かった」といった要望が目立った。

③満足度２～３

特徴語として、「選択」「物理」「生物」などがみられた。高校のときに選択していなかった理科科目（物理または生物）の授業に対する、難易度のミスマッチに関して「改善が必要」と感じている。

④満足度１

特徴語として、「教員」がみられた。「教員によって授業の質が違っていた」「教員の声が聞き取りにくかった」「教員の指示が不明瞭だった」といった、担当教員に対して「改善が必要」であるとの記述が目立った。

４．考察

4.1. 学生が主体的に学ぶ授業を設計するためのヒント

本分析を通して、学生にとっての良い授業、学習しやすい授業がどのようなものかが見えてきたといえる。学生が記述した「良かった点」や「改善点」の中には、たとえば、学生が単位を取得する上で「コスパの良い授業」を志向するようなものがないわけではなかった。それでも、学生がより主体的に学んだり学びたいことを見つけたりするきっかけとなるならば、大学として積極的に学生の意見を把握し、取り入れていくことは必要であろう。以下に、学生がどのような授業を求めているかをまとめていく。

(1)授業内容の充実と伝達方法の最適化

授業内容には、教員の専門分野や研究内容、最新の研究動向といったその科目の専門的な内容が含まれることが期待されている。加えて、その授業内容が、学生に理解しやすい形、復習しやすい形で伝達されることが求められている。具体的には、情報量が学生にとって受け止め切れる程度であること、授業中に理解でき予習・復習ができるよう、資料やスライドなどで情報が可視化されていること、そしてそれが手元に残ることが希望されていた。また、学生からの質問に回答する際、学生の疑問を受け止めて丁寧に対応することも、学習の理解の促進、興味関心の喚起に必要である。

学生の学習を深化、促進するには、教員は学生の様子を随時確認しながら授業を進めることが必要である。優先すべきことは「各回の授業内容を終えること」ではない。授業を受けたことによって学生が知識やスキルを習得できたり意識変容が生じたりすることが、授業の本来の目的といえる。授業を受けて何をどの程度理解できたのか、どのような意識変容が起こったかなどを小テストや小レポートなどで確認する機会を作ると良い。小テストや小レポートは学習の振り返りになるということを、学生たち自身は気づいている。

小テストや小レポートをしたほうがいいという点は、成績評価に対する学生たちの要望でもある。1 回のみの期末テストあるいは期末レポートで成績が決まる形式は、毎回の積み重ねが評価されないことから、学生には緊張感を生じさせている。小テストや小レポートをすることで、教員にとっては採点等の手間が増えることにはなるものの、学生の学習意欲を継続させ、学習場面での心理的安全性を確保するためには有効な方法であろう。

なお、成績評価基準が予定と異なることや不明瞭であることは、学生と教員間の信頼関係に影響することが示唆された。成績評価基準を明確に伝えること、成績評価の方法を早めに周知することは必須である。

(2)学習活動の多様化と最適化

授業内での活動は、年々多様になっている。もちろん、教員から学生へのレクチャーは、多くの知識を伝達するには効率的な方法である。しかしながら、入力したならば学生自身が出力する時間も学習内容の理解や意味づけには必要である。グループワークやグループ討論、プレゼンテーションなどを取り入れることは、知識を定着させたり内容を理解したりする際に有用であると学生自身が感じていた。また、これらの能動的、インタラクティブな活動は、教員の話をずっと聞いているよりも「楽しい」「面白い」と学生たちに感じさせていた。授業中に楽しいと思えることは、授業内容への興味関心の喚起にもつながりうる。グループ（ペア）ワーク、グループ討論、プレゼンテーションといった能動的活動、インタラクティブ活動を、学期のどこかで実施することは学習を促進するために有効である。

とはいえ、そういった活動を入れさえすればいいというわけでもない。グループワークが活発に行われるには、ワークに十分な時間が割り当てられていること、フリーライダー（ただ乗りする人）が出ないようにグループ人数が設定されること（4～5人が最適といわれる)、メンバーの入れ替えがあることなど、調整すべき事項がある。プレゼンテーションについても、準備に十分な時間が与えられること、プレゼンテーションの仕方やその準備の仕方などの説明や助言があることなどが求められている。

4.2. 北海道大学のカリキュラムが持つ問題点

(1)生物と物理

高校での生物、物理の選択の有無によって、学生の当該科目内容への知識量は当然大きく異なる。そのような状況で、履修者と未履修者が同じクラスに混在していることは、学生の知識量と授業で取り上げられる内容の難易度にミスマッチが生じる原因になっていると考えられる。履修者には簡単すぎ、未履修者には難しすぎるという状況は、学生にとっても教員にとっても心地いいものではないであろう。改善策としては、たとえば、履修者と未履修者でクラスを分け、それぞれに適した情報量や難易度の授業を設定することが挙げられる。あるいは、レベルの異なるクラスをいくつか設定し、どのレベルのクラスを選ぶか学生本人が選べるようにすることも方法の一つであろう。ただし、現在の移行点による「振り分け」制度のもとでは実現は難しい。

(2)予習・復習時間

1週あたりの予習・復習時間が、4時間以上の授業から30分以下の授業まで様々であった。文部科学省の大学設置基準では、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが定められている。予習・復習時間が30分以下の場合、学修時間が明らかに少ないことになる。すべての授業で毎週4時間の予習・復習をするとなると、学生は疲弊してしまう。しかしながら、「授業を聞いたらその週は終わり」という形式の授

業は減らしていくことが望ましいであろう。予習・復習のための課題をどの科目でも設定することは、学生の学習活動の充実のためには必要であると考えられる。

学生の学びを促進する魅力的な授業方法に関する知識やスキルを教員に提供することは、FD において扱うべき内容である。本授業アンケートの結果を FD に活かせるようになり、学生および教員の役に立てるようにすることが、私たちの願いであり責務であると考える。

５．まとめ

本報告では、令和５年度の授業評価アンケートの自由記述（良かった点、改善点）を分析した。その結果、授業改善の着眼点について以下の３点が見出された。

(1) 学生が授業内容を十分に理解・習得できるためには、授業の情報量と課題量は学生が受け止め切れる程度にするとともに、予習・復習のための学習リソース（資料や課題）を提供する。

(2) 知識を入力するためのレクチャーだけでなく、知識を出力するためのグループワークやプレゼンテーションなどの能動的でインタラクティブな活動を取り入れる。一方で、フリーライダーの防止や準備に十分な時間を与えるなど、取り入れるうえでの工夫が求められる。

(3) 学生の学習意欲を維持するために、学習の積み重ねを評価する小テストや小レポートを適宜設ける。

全体集計

A 授業内容

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均	クラスサイズ（人） 25以下	26～50	51～100	101～200	201以上
1 シラバスは，授業の目標，内容，評価方法を明快に示していた。	5	38.79	43.15	36.43	49.54	34.32	44.93	50.53	39.99	34.38	35.53	39.32
	4	53.65	50.88	55.31	46.08	56.41	49.86	44.68	53.62	56.08	56.39	54.92
	3	6.03	4.79	6.60	3.41	7.34	4.23	3.78	4.98	7.62	6.68	4.35
	2	1.24	0.93	1.33	0.82	1.57	0.78	0.79	1.20	1.56	1.08	1.13
	1	0.30	0.25	0.33	0.15	0.37	0.21	0.22	0.22	0.37	0.32	0.28
	無回答	0.63	0.48	0.64	0.59	0.61	0.65	0.57	0.53	0.63	0.69	0.84
	平均値	4.29	4.36	4.26	4.44	4.23	4.39	4.45	4.32	4.23	4.26	4.32
2 授業はシラバスにそって行われていた。	5	41.39	44.95	39.09	51.87	36.34	48.29	52.86	42.08	37.12	37.82	43.56
	4	51.87	49.33	53.51	44.40	55.32	47.14	43.17	51.64	54.22	55.70	50.93
	3	5.55	4.68	6.08	3.12	6.81	3.82	3.29	4.84	7.17	5.55	4.44
	2	0.96	0.82	1.06	0.51	1.21	0.61	0.57	1.10	1.15	0.81	0.90
	1	0.24	0.23	0.28	0.10	0.32	0.14	0.11	0.34	0.33	0.12	0.17
	無回答	0.44	0.25	0.46	0.38	0.46	0.42	0.35	0.29	0.47	0.69	0.34
	平均値	4.33	4.38	4.30	4.47	4.26	4.43	4.48	4.34	4.27	4.30	4.37
3 授業で要求される作業量（レポート，宿題，自習など）は適切であった。	5	37.56	42.29	35.71	45.97	34.03	42.39	45.35	41.67	35.77	29.51	38.46
	4	47.39	45.57	48.03	44.46	47.09	47.80	43.69	46.78	49.20	45.96	51.46
	3	9.03	7.58	9.64	6.23	10.73	6.69	7.25	7.22	9.82	11.83	6.87
	2	4.58	3.50	5.01	2.63	6.10	2.51	2.82	3.55	3.97	9.33	2.53
	1	1.45	1.07	1.61	0.72	2.06	0.61	0.90	0.78	1.25	3.36	0.68
	無回答	0.31	0.23	0.31	0.28	0.28	0.35	0.30	0.19	0.34	0.27	0.50
	平均値	4.15	4.25	4.11	4.32	4.05	4.29	4.30	4.25	4.14	3.89	4.24
4 授業内容の難易度は適切であった。	A	6.73	4.30	7.44	3.50	8.52	4.27	4.23	4.74	9.21	6.57	5.56
	B	27.80	21.17	29.67	19.30	32.45	21.44	21.39	22.22	33.10	32.26	19.65
	C	59.62	66.73	57.76	68.06	54.21	67.03	65.86	65.52	53.05	57.29	68.28
	D	5.26	6.98	4.61	8.22	4.30	6.58	7.59	6.64	4.18	3.57	6.06
	E	0.59	0.83	0.52	0.92	0.52	0.69	0.92	0.88	0.47	0.32	0.45
	無回答	0.27	0.25	0.28	0.25	0.29	0.26	0.22	0.19	0.28	0.42	0.22
	平均値	4.05	4.23	4.00	4.27	3.90	4.24	4.21	4.20	3.87	4.01	4.25
設問1～4の合計	5	31.10	33.67	29.66	37.70	28.29	34.95	38.23	32.11	29.11	27.34	31.71
	4	45.16	41.73	46.62	38.55	47.81	41.55	38.23	43.56	48.14	47.56	44.22
	3	20.07	20.95	20.04	20.22	19.79	20.47	20.07	20.66	19.43	20.35	21.02
	2	3.01	3.06	3.00	3.05	3.30	2.62	2.95	3.12	2.72	3.70	2.66
	1	0.65	0.60	0.68	0.47	0.82	0.41	0.54	0.55	0.60	1.03	0.39
	無回答	0.41	0.30	0.42	0.38	0.41	0.42	0.36	0.30	0.43	0.51	0.48
	平均値	4.21	4.30	4.17	4.38	4.11	4.34	4.36	4.28	4.13	4.11	4.29

B 授業手法，教員の行動

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均	クラスサイズ（人） 25以下	26～50	51～100	101～200	201以上
5 教員の説明はわかりやすかった。	5	31.25	39.85	28.38	44.33	27.34	36.60	44.26	37.18	27.22	22.79	28.30
	4	47.49	46.70	47.84	45.92	46.22	49.24	45.10	47.01	45.57	50.90	54.51
	3	13.83	9.68	15.21	7.58	16.20	10.59	8.43	10.54	16.43	17.22	13.08
	2	5.72	2.97	6.55	1.92	7.69	3.03	1.82	4.03	8.04	7.27	3.61
	1	1.70	0.80	2.02	0.26	2.55	0.55	0.38	1.24	2.74	1.82	0.51
	無回答	0.70	0.86	0.74	0.51	0.79	0.56	0.54	0.53	0.91	0.61	0.62
	平均値	4.01	4.22	3.94	4.32	3.88	4.18	4.31	4.15	3.86	3.86	4.06
6 教員の熱意が伝わってきた。	5	39.33	45.70	35.91	54.90	32.50	48.68	54.67	43.37	33.18	33.49	39.50
	4	44.24	42.55	45.46	38.69	45.63	42.35	38.50	43.52	45.43	45.73	49.04
	3	12.14	8.91	13.71	4.99	15.73	7.22	5.39	10.00	15.34	15.28	9.37
	2	3.34	2.13	3.82	1.15	4.78	1.37	1.14	2.39	4.68	4.32	1.75
	1	0.95	0.70	1.10	0.26	1.36	0.38	0.30	0.73	1.36	1.18	0.34
	無回答	0.70	0.85	0.73	0.56	0.75	0.63	0.57	0.46	0.84	0.78	0.73
	平均値	4.18	4.30	4.11	4.47	4.03	4.38	4.46	4.26	4.04	4.06	4.26
7 教員の話し方は聞き取りやすかった。	5	37.96	46.67	35.04	51.26	33.64	43.85	51.73	43.65	33.25	29.80	36.36
	4	44.81	41.28	45.69	40.80	44.45	45.30	40.27	42.01	44.73	49.16	51.07
	3	10.80	7.78	11.94	5.64	12.95	7.87	5.66	8.87	12.94	13.65	9.70
	2	4.95	3.41	5.63	1.90	6.89	2.31	1.85	4.42	6.89	5.73	2.03
	1	1.47	0.86	1.71	0.41	2.06	0.68	0.49	1.05	2.19	1.65	0.85
	無回答	0.84	1.13	0.88	0.64	1.00	0.62	0.62	0.70	1.06	0.83	0.62
	平均値	4.13	4.30	4.07	4.41	4.01	4.29	4.41	4.23	4.00	4.00	4.20
8 教員は効果的に学生の参加（発言，自主的学習，作業など）を促した。	5	30.08	44.87	24.99	52.81	25.73	35.98	52.86	38.27	21.81	20.41	22.30
	4	41.04	43.15	41.44	39.25	41.07	41.00	37.78	45.27	38.90	43.16	42.87
	3	18.94	8.84	21.77	6.32	21.31	15.73	7.16	11.42	24.65	24.56	22.76
	2	8.50	2.57	10.10	1.38	9.93	6.56	1.91	4.35	12.34	10.41	10.40
	1	1.44	0.57	1.71	0.23	1.97	0.73	0.30	0.68	2.30	1.47	1.67
	無回答	2.08	1.00	2.42	0.48	2.49	1.51	0.60	0.78	2.70	3.28	2.52
	平均値	3.90	4.29	3.78	4.43	3.79	4.05	4.41	4.16	3.66	3.71	3.74
9 教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。	5	34.83	43.28	31.27	50.81	31.05	39.98	51.36	39.53	30.00	27.36	28.06
	4	47.17	45.22	48.27	42.23	48.15	45.83	41.84	47.01	47.60	50.31	49.63
	3	15.52	9.97	17.62	6.08	17.88	12.30	5.95	11.86	19.19	19.17	19.16
	2	1.95	1.23	2.24	0.64	2.30	1.47	0.66	1.25	2.52	2.49	2.47
	1	0.53	0.30	0.60	0.23	0.62	0.42	0.19	0.34	0.69	0.66	0.69
	無回答	2.02	1.18	2.29	0.81	2.24	1.72	0.87	0.99	2.59	2.82	2.35
	平均値	4.14	4.30	4.07	4.43	4.07	4.23	4.44	4.24	4.04	4.01	4.02
10 黒板，教科書，プリントやＡＶ機器等の使われ方が効果的であった。	5	37.46	42.65	35.08	48.28	33.79	42.48	48.64	39.61	33.58	34.06	34.76
	4	50.21	47.51	51.23	45.60	50.90	49.27	44.50	49.29	50.56	53.94	54.06
	3	9.07	7.56	9.99	4.89	11.01	6.42	5.75	7.92	11.28	9.04	8.69
	2	2.52	1.74	2.83	1.10	3.27	1.49	0.98	2.24	3.56	2.34	2.03
	1	0.73	0.54	0.87	0.13	1.02	0.34	0.14	0.93	1.03	0.62	0.45
	無回答	0.68	0.73	0.71	0.53	0.75	0.59	0.65	0.46	0.84	0.59	0.73
	平均値	4.21	4.30	4.17	4.41	4.13	4.32	4.41	4.24	4.12	4.18	4.21
設問5～10の合計	5	35.16	43.84	31.80	50.40	30.69	41.27	50.59	40.27	29.86	28.02	31.58
	4	45.84	44.40	46.67	42.08	46.08	45.50	41.33	45.68	46.48	48.89	50.22
	3	13.37	8.79	15.01	5.92	15.83	10.01	6.39	10.10	16.61	16.44	13.75
	2	4.49	2.34	5.19	1.35	5.81	2.70	1.39	3.11	6.33	5.41	3.70
	1	1.14	0.63	1.34	0.25	1.60	0.52	0.30	0.83	1.72	1.23	0.75
	無回答	1.17	0.96	1.30	0.59	1.34	0.94	0.64	0.66	1.49	1.49	1.26
	平均値	4.09	4.28	4.02	4.41	3.98	4.24	4.41	4.21	3.95	3.97	4.08

C 受講生の行動(1)

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
11 この授業の自分の出席率は( )%程度であった。	100	68.60	64.20	68.60	68.62	70.70	65.72
	80	27.36	30.92	26.88	29.54	24.72	30.97
	60	2.93	2.93	3.24	1.48	2.98	2.85
	40	0.59	0.88	0.67	0.23	0.82	0.28
	20	0.52	1.07	0.61	0.13	0.78	0.17
	無回答	0.26	0.18	0.27	0.18	0.25	0.26
	平均値	4.63	4.56	4.62	4.66	4.64	4.62
12 質問，発言，調査，自習などにより，自分はこの授業に積極的に参加した。	5	21.53	27.78	18.89	33.45	19.78	23.94
	4	46.18	48.49	45.58	48.91	45.13	47.62
	3	22.10	17.28	24.09	13.12	23.66	19.96
	2	8.92	5.66	9.98	4.15	9.91	7.57
	1	1.26	0.79	1.46	0.36	1.52	0.91
	無回答	1.37	0.80	1.53	0.66	1.32	1.46
	平均値	3.78	3.97	3.70	4.11	3.72	3.86
13 この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった。	4H以上	3.11	2.70	3.14	3.01	3.62	2.42
	3H	4.94	4.75	4.94	4.98	5.96	3.55
	2H	17.10	19.25	17.05	17.33	20.28	12.75
	1H	38.70	44.90	38.29	40.60	41.23	35.24
	30分以下	36.14	28.41	36.59	34.09	28.91	46.05
	無回答	0.25	0.25	0.26	0.20	0.21	0.30
	平均値	2.00	2.08	2.00	2.02	2.14	1.81
設問11～13の合計	5	31.12	31.57	30.25	35.03	31.40	30.72
	4	26.08	28.02	25.71	27.78	25.20	27.30
	3	14.01	13.14	14.76	10.64	15.61	11.82
	2	16.10	17.16	16.34	15.01	17.35	14.39
	1	12.69	10.10	12.94	11.54	10.44	15.77
	無回答	0.63	0.41	0.69	0.35	0.59	0.67
	平均値	3.47	3.54	3.44	3.60	3.50	3.43

C 受講生の行動(2)

		授業法 平均	学生参加 平均	難易度						クラスサイズ(人)				
				A	B	C	D	E	無回答	25以下	26～50	51～100	101～200	201以上
11 この授業の自分の出席率は( )%程度であった。	5	4.11	3.97	64.42	67.73	69.66	68.04	60.47	52.27	68.25	65.98	70.70	69.78	63.13
	4	4.06	3.92	29.40	27.65	26.92	27.32	29.46	43.18	29.59	29.54	24.58	26.02	33.39
	3	3.76	3.64	4.05	3.54	2.49	2.98	6.20	0.00	1.79	3.02	3.28	3.34	2.53
	2	3.48	3.23	0.82	0.55	0.53	1.23	1.55	0.00	0.24	0.66	0.76	0.52	0.56
	1	3.21	3.11	1.30	0.53	0.41	0.44	2.33	4.55	0.14	0.80	0.68	0.34	0.39
	無回答	2.63	2.46	0.55	0.08	0.18	0.26	0.00	26.67	0.14	0.29	0.23	0.34	0.34
12 質問，発言，調査，自習などにより，自分はこの授業に積極的に参加した。	5	4.59	4.56	28.98	14.76	23.45	24.98	34.96	12.50	34.42	24.41	17.22	16.99	17.82
	4	4.10	3.99	30.04	45.70	48.37	45.79	30.89	50.00	49.03	47.99	43.54	46.60	47.11
	3	3.80	3.59	23.09	26.36	20.43	17.63	18.70	22.50	12.49	20.13	25.92	24.89	23.04
	2	3.62	3.38	12.84	11.70	7.04	10.19	12.20	12.50	3.70	6.54	11.60	10.12	10.49
	1	3.04	2.77	5.05	1.47	0.71	1.42	3.25	2.50	0.35	0.93	1.72	1.40	1.55
	無回答	3.43	2.53	2.66	1.14	1.16	1.40	4.65	33.33	0.57	0.90	1.47	2.01	2.24
13 この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった。	5	4.17	4.18	13.85	2.99	2.09	1.40	6.25	0.00	3.61	2.53	3.04	3.78	2.25
	4	3.94	3.99	7.82	7.06	3.91	1.75	3.13	9.76	5.58	4.26	4.72	6.63	2.36
	3	4.07	4.03	17.90	20.10	16.24	10.67	10.94	17.07	19.44	17.74	17.53	16.85	9.40
	2	4.11	4.00	30.80	38.74	40.45	31.58	15.63	34.15	39.31	44.48	40.05	32.32	32.55
	1	4.06	3.80	29.63	31.11	37.30	54.59	64.06	39.02	32.07	31.00	34.66	40.42	53.43
	無回答	2.63	2.38	0.41	0.08	0.17	0.17	0.78	31.67	0.19	0.27	0.20	0.29	0.50
設問11～13の合計	5	4.22	4.11	35.79	28.54	31.76	31.49	33.95	22.40	35.43	30.98	30.37	30.25	27.81
	4	4.08	3.97	22.36	26.74	26.33	24.87	21.05	34.40	28.04	27.22	24.20	26.30	27.51
	3	3.91	3.77	14.96	16.63	13.03	10.40	11.84	12.80	11.23	13.61	15.53	14.97	11.58
	2	4.01	3.88	14.84	17.01	16.03	14.35	9.74	15.20	14.43	17.25	17.50	14.34	14.55
	1	4.01	3.76	12.05	11.07	12.85	18.89	23.42	15.20	10.86	10.93	12.40	14.13	18.55
	無回答	3.21	2.50	1.21	0.44	0.50	0.61	1.81	30.56	0.30	0.49	0.63	0.88	1.03

D 教育効果(1)

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
14 シラバスに記載されている到達目標は、（ ）割程度達成できた。	10	10.19	11.06	9.63	12.77	9.58	11.04
	9	14.60	16.67	13.37	20.21	12.32	17.72
	8	32.06	32.70	31.37	35.18	30.55	34.13
	7	23.44	23.43	23.95	21.11	24.06	22.60
	6	11.04	9.74	11.95	6.93	12.62	8.89
	5	5.28	4.04	5.90	2.46	6.47	3.65
	4	1.51	1.27	1.69	0.72	1.91	0.97
	3	1.00	0.75	1.12	0.46	1.30	0.60
	2	0.45	0.18	0.54	0.03	0.67	0.14
	1	0.22	0.10	0.25	0.05	0.29	0.12
	0	0.20	0.05	0.23	0.08	0.24	0.15
	無回答	0.47	0.45	0.46	0.48	0.44	0.51
	平均値	7.57	7.73	7.48	7.97	7.41	7.79

D 教育効果(2)

		授業法 平均	学生参加 平均	難易度 A	B	C	D	E	無回答	クラスサイズ(人) 25以下	26～50	51～100	101～200	201以上
14 シラバスに記載されている到達目標は、（ ）割程度達成できた。	10	4.50	4.39	14.74	5.15	11.43	14.54	34.38	4.65	12.80	10.40	9.28	9.49	10.08
	9	4.32	4.17	6.96	8.85	17.13	25.39	20.31	13.95	19.81	16.34	12.05	12.92	15.21
	8	4.19	4.03	14.46	27.79	36.00	33.27	20.31	41.86	35.27	32.05	29.65	32.99	34.31
	7	3.98	3.86	19.42	28.50	22.27	16.73	13.28	11.63	20.92	23.14	23.81	25.20	23.66
	6	3.76	3.63	15.01	17.08	8.28	5.69	7.03	16.28	7.31	10.69	13.33	10.85	9.63
	5	3.59	3.46	13.77	7.55	3.52	2.80	1.56	6.98	2.45	4.48	7.09	5.40	4.45
	4	3.41	3.24	4.48	2.82	0.66	0.61	0.78	2.33	0.73	1.53	2.04	1.26	1.30
	3	3.25	3.17	5.51	1.39	0.36	0.70	0.00	0.00	0.54	0.73	1.38	1.11	0.62
	2	3.14	3.02	2.55	0.43	0.26	0.00	0.78	0.00	0.05	0.34	0.80	0.32	0.17
	1	2.99	3.10	1.52	0.23	0.07	0.09	0.78	0.00	0.03	0.15	0.27	0.27	0.39
	0	2.53	2.33	1.58	0.20	0.04	0.18	0.78	2.33	0.08	0.15	0.30	0.20	0.17
	無回答	3.06	3.06	0.82	0.45	0.32	0.26	0.78	28.33	0.43	0.36	0.41	0.69	0.56

D 教育効果(3)

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
15 授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった。	5	26.67	28.01	24.34	37.25	21.50	33.75
	4	48.20	49.17	48.12	48.58	47.03	49.80
	3	16.92	15.97	18.21	11.03	20.52	11.99
	2	6.59	5.58	7.46	2.66	8.75	3.64
	1	1.62	1.27	1.87	0.49	2.21	0.82
	無回答	0.59	0.55	0.62	0.46	0.63	0.54
	平均値	3.92	3.97	3.86	4.19	3.77	4.12
16 授業は全体として満足できるものであった。	5	36.13	42.76	32.42	53.01	29.72	44.92
	4	48.27	46.34	49.74	41.57	49.56	46.49
	3	10.82	7.60	12.28	4.17	14.09	6.33
	2	3.47	2.39	4.03	0.95	4.84	1.61
	1	1.31	0.90	1.53	0.31	1.80	0.64
	無回答	0.55	0.60	0.56	0.46	0.53	0.56
	平均値	4.14	4.28	4.07	4.46	4.01	4.33
設問15～16の合計	5	31.40	35.39	28.39	45.13	25.61	39.34
	4	48.23	47.76	48.93	45.08	48.29	48.15
	3	13.87	11.79	15.24	7.60	17.30	9.16
	2	5.03	3.98	5.74	1.80	6.79	2.62
	1	1.47	1.09	1.70	0.40	2.01	0.73
	無回答	0.57	0.58	0.60	0.46	0.58	0.56
	平均値	4.03	4.12	3.97	4.33	3.89	4.23

D 教育効果(4)

		授業法 平均	学生参加 平均	難易度 A	B	C	D	E	無回答	クラスサイズ(人) 25以下	26～50	51～100	101～200	201以上
15 授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった。	5	4.62	4.45	27.57	16.76	30.50	33.25	40.48	16.28	38.71	26.24	22.85	22.26	30.14
	4	4.09	3.92	24.62	48.28	51.10	47.33	27.78	48.84	47.30	48.68	46.05	50.67	53.13
	3	3.63	3.54	18.24	23.03	14.25	12.95	15.08	27.91	11.08	16.80	20.30	17.60	12.28
	2	3.31	3.33	18.31	10.01	3.68	5.86	12.70	6.98	2.36	6.73	8.66	7.50	3.55
	1	2.56	2.79	11.25	1.91	0.47	0.61	3.97	0.00	0.54	1.54	2.14	1.97	0.90
	無回答	3.30	3.24	0.41	0.63	0.49	0.17	2.33	28.33	0.41	0.51	0.63	0.78	0.56
16 授業は全体として満足できるものであった。	5	4.65	4.44	28.34	22.84	42.25	45.57	49.22	29.55	52.85	40.22	30.86	27.87	34.85
	4	3.98	3.83	27.24	54.17	48.62	42.41	26.56	45.45	40.83	47.25	48.45	53.39	53.49
	3	3.28	3.30	20.29	16.64	7.35	6.94	10.94	20.45	4.99	8.35	14.01	13.18	8.67
	2	2.74	2.95	14.03	5.14	1.41	3.86	10.16	4.55	0.92	3.08	4.89	3.97	2.08
	1	1.92	2.43	10.11	1.21	0.36	1.23	3.13	0.00	0.41	1.10	1.79	1.58	0.90
	無回答	3.35	3.14	0.68	0.58	0.39	0.52	0.78	26.67	0.32	0.58	0.50	0.81	0.50
設問15～16の合計	5	4.64	4.44	27.95	19.80	36.38	39.40	44.88	22.99	45.78	33.23	26.86	25.06	32.50
	4	4.04	3.87	25.93	51.23	49.86	44.87	27.17	47.13	44.06	47.97	47.25	52.03	53.31
	3	3.50	3.44	19.27	19.84	10.80	9.95	12.99	24.14	8.04	12.58	17.15	15.39	10.48
	2	3.11	3.20	16.17	7.57	2.54	4.86	11.42	5.75	1.64	4.90	6.77	5.74	2.82
	1	2.27	2.63	10.68	1.56	0.42	0.92	3.54	0.00	0.48	1.32	1.96	1.78	0.90
	無回答	3.33	3.19	0.55	0.60	0.44	0.35	1.55	27.50	0.37	0.55	0.57	0.80	0.53

A 授業内容

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
1　シラバスは，授業の目標，内容，評価方法を明快に示していた。	5及び4	92.44	94.03	91.74	95.62	90.73	94.79
	2及び1	1.54	1.18	1.66	0.97	1.94	0.99
2　授業はシラバスにそって行われていた。	5及び4	93.26	94.28	92.60	96.27	91.66	95.43
	2及び1	1.20	1.05	1.34	0.61	1.53	0.75
3　授業で要求される作業量（レポート，宿題，自習など）は適切であった。	5及び4	84.95	87.86	83.74	90.43	81.12	90.19
	2及び1	6.03	4.57	6.62	3.35	8.16	3.12
4　授業内容の難易度は適切であった。	A及びB	34.53	25.47	37.11	22.80	40.97	25.71
	D及びE	5.85	7.81	5.13	9.14	4.82	7.27

B 授業手法，教員の行動

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
5　教員の説明はわかりやすかった。	5及び4	78.74	86.55	76.22	90.25	73.56	85.84
	2及び1	7.42	3.77	8.57	2.18	10.24	3.58
6　教員の熱意が伝わってきた。	5及び4	83.57	88.25	81.37	93.59	78.13	91.03
	2及び1	4.29	2.83	4.92	1.41	6.14	1.75
7　教員の話し方は聞き取りやすかった。	5及び4	82.77	87.95	80.73	92.06	78.09	89.15
	2及び1	6.42	4.27	7.34	2.31	8.95	2.99
8　教員は効果的に学生の参加（発言，自主的学習，作業など）を促した。	5及び4	71.12	88.02	66.43	92.06	66.80	76.98
	2及び1	9.94	3.14	11.81	1.61	11.90	7.29
9　教員は学生の質問・発言等に適切に対応した。	5及び4	82.00	88.50	79.54	93.04	79.20	85.81
	2及び1	2.48	1.53	2.84	0.87	2.92	1.89
10　黒板，教科書，プリントやＡＶ機器等の使われ方が効果的であった。	5及び4	87.67	90.16	86.31	93.88	84.69	91.75
	2及び1	3.25	2.28	3.70	1.23	4.29	1.83

C 受講生の行動(1)

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
11　この授業の自分の出席率は( )%程度であった。	100及び80	95.96	95.12	95.48	98.16	95.42	96.69
	60・40・20	4.04	4.88	4.52	1.84	4.58	3.30
12　質問，発言，調査，自習などにより，自分はこの授業に積極的に参加した。	5及び4	67.71	76.27	64.47	82.36	64.91	71.56
	2及び1	10.18	6.45	11.44	4.51	11.43	8.48
13　この授業１回（90分）のための予習・復習に費やした時間は平均(　)であった。	3時間以上（4H以上及び3H）	8.05	7.45	8.08	7.99	9.58	5.97
	1時間以下（1H・30以下）	74.84	73.31	74.88	74.69	70.14	81.29

D 教育効果(1)

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
14　シラバスに記載されている到達目標は，（　）割程度達成できた。	8割以上（10割 ～ 8割）	56.85	60.43	54.37	68.16	52.45	62.89
	5割以下（5割～0割）	8.66	6.39	9.73	3.80	10.88	5.63

D 教育効果(3)

		全体 平均	外国語 平均	講義科目 平均	演習科目 平均	必修科目 平均	選択科目 平均
15　授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった。	5及び4	74.87	77.18	72.46	85.83	68.53	83.55
	2及び1	8.21	6.85	9.33	3.15	10.96	4.46
16　授業は全体として満足できるものであった。	5及び4	84.40	89.10	82.16	94.58	79.28	91.41
	2及び1	4.78	3.29	5.56	1.26	6.64	2.25